

よく遊び じっくり学び 正しく選ぶ 子



緑小だより 2月号

令和7年1月31日（金）

茅ヶ崎市立緑が浜小学校
校長 菅野 康一

【よきそう 1.17】

1月が“いき”、2月がやってきました。全校集会で話したように、“いかさず、にがさず、さらせず”1日1日大切に過ごしてほしいです。



さて、この学校だよりを書いている1月17日は、1995年に発生した阪神淡路大震災から30年となる日でした。この日は、被害を受けた各地で追悼行事が行われ、神戸市中央区の公園「東遊園地」では、犠牲者を悼む灯籠が「1.17」や「よきそう」という文字のかたちにならべられています。「よきそう」という文字には、震災を経験した人が少なくなっても被災者を忘れず寄り添い続けようとの思いや、この30年の間に起きた東日本大震災や能登半島地震の被災者も支えていこうとの思いが込められています。去年元日の能登半島地震など各地で災害が相次ぎ、南海トラフ巨大地震など新たな災害への備えも求められる中、過去の教訓を

今後の防災にどう生かすのか、30年の歩みを見つめ変わらぬ課題を考えさせられる1日となりました。

正月の箱根駅伝では、優勝した青山学院大学の原普監督が恒例となっているチームの作戦名を『あいたいね大作戦』にするとし、「大手町のフィニッシュでチーム全体で笑顔で会いたいしファンの皆様と笑顔で喜び合いたい。優勝するといろいろな出会いがあり、スポーツ界や経済界など、思ってもみなかった方々と会える」と説明しました。この言葉も、いろいろな人たちとつながり「よきそう」感謝の気持ちを表そうということから生まれたものなのだと思います。緑が浜小学校も学校の作戦名を『よきそう大作戦』として、お互いに寄り添い合える温かい学校を目指していきたいと思っています。

次に、夏休み前に5年生が実施した「令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の本校の結果を分析いたしましたので、概要をご報告させていただきます。

（5年生保護者の皆様には、結果をお知らせしております。）

1. 実技に関する調査

「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」の8種目で実施しました。

8種目中、男子は5種目・女子は1種目が全国・県平均値を上回っており、男女とも総合評価C（平均的な数値）は、全国・県平均値を上回っています。

男子は、総合評価A,Bが全国・県平均値を上回っていること、総合評価Eが全国・県平均値よりかなり少ないことから、全体的に運動能力が高いということが言えます。

2. 質問に関する調査

運動習慣、生活習慣に関する質問に対して、多くの児童が肯定的に回答しています。特に『体育の授業で、友だちと助け合ったり、教え合ったりする学習で、「できたり、わかったりすること」がありますか？』の質問に関しては、男女とも「いつもある」と回答した数が全国・県平均を上回っています。今後も、授業において、男女がともに目標に向かい、助け合う、教え合うという活動をさらに増やし、運動が得意な子もそうでない子も意欲的に取り組めるような授業づくりを目指していきます。